

## メッセージ：無敵の壁に立ち向かう

OICの皆様おはようございます。  
ようこそ天の父なる神の家へ来られました。

前回のヨシュア記のメッセージで、私は次のようなコメントで締めくくりました：  
多くの誠実なクリスチャンが何年もイエス様に従ってきたが、いつの間にか落胆し、親密な関係を保とうとしませんでした。誰かが、あるいは何かが、何年もイエス様に従ってきた多くの誠実なクリスチャンの心を痛みで押しつぶしました。何年もイエス様に従ってきた多くの誠実なクリスチャンは押しつぶされた心の痛みのため、神様を非難したり、単に神様から離れていくように見えました。イエス様は<ヘブル人への手紙 13章5節>で私たちクリスチャンを決して捨てず、または、見捨てないと約束されました。

<ヘブル人への手紙 13章5節>

神は、こう約束しておられます。「わたしはどんな場合にもあなたの期待にそむかず、あなたを見捨てない。

聖書は<テモテ人への手紙 2章13節>でもまた私たちにこう言っています。

<テモテ人への手紙Ⅱ 2章13節>

しかしたとえ、信仰をなくしたかと思えるほど私たちが弱くなっても、キリストは真実を貫き、私たちを助けてくださいます。私たちは主の一部になっているので、切り捨てられることはないのです。そして、主はいつも約束を果たしてください。

だから、神様が愛する親愛なるイエス様を信じる者たちをイエス様の近くに引き戻した後、神様が愛する親愛なるイエス様を信じる者たちにも個人的なギルガルがあります。神様が愛する親愛なるイエス様を信じる者たちは、キリストに出逢って信じて救われた初期の頃のように、私の罪は洗われ、消え去りましたと再び歌うことができます。神様が愛する親愛なるイエス様を信じる者たちは今、賛美のように言うことができます。

**神よ、あなたは私の神、私はいつもあなたを賛美します。  
わたしは朝、あなたを求め、あなたの道を知ることが学びます。  
一步一步、あなたは私を導いてくださいます。  
そして、私は私の日々のすべてをあなたに従います。**

私たちクリスチャンは、日々神様を求め、神様が一步一步導いてくださることを信じることができます。

今日、私はこの説教のタイトルを「壁が大きすぎて。」としました。

ヨシュアは神様の奇跡によって、イスラエルの民を「乾いた」ヨルダン川に導きましたが、結局ただエリコという無敵の要塞に直面する結果となりました。イエス様を信じてまもない者たちと話すとき、私はこう言います： あなたの人生に対する神様のご計画を知っているのは神様だけです。しかし、栄光に向かってあなたのクリスチャンの歩みにおいてどんな喜びや悲しみがあろうとも、クリスチャン生活が退屈であることはあまりありません！

今日、私は前回のメッセージから、クリスチャンの「後退」、つまり「イエス様との交わりを離れること」についての最後のコメントを繰り返しました。これは、私のメッセージのた

めの切れ目なく続くまたは歴史の流れです。しかしまた、多くの誠実なクリスチャンが、神様がすでに赦してくださったことに対して、自分自身を赦すのに苦労していることも知っています。

<ヨシュア記 5 章 9 節-12 節>を読みます。

<ヨシュア記 5 章 9 節-12 節>

(8)・9 主はヨシュアに語りました。「今日わたしは、割礼を受けていないという恥をあなたがたから取り除いた。」それで、この出来事のあった場所はギルガル〔「終わらせる」の意〕と呼ばれ、現在でもそう呼ばれています。割礼を終えたのちも、彼らは傷が治るまで宿営にとどまっていた。

10 エリコの平原にあるギルガルに滞在中も、イスラエル人は第一の月の十四日の夕方になると、過越の祭りを祝いました。

11・12 そして翌日、自分たちの占領下にある畑から収穫した産物、パン種を入れないパンと炒り麦を食べました。すると、次の日からマナは降らなくなり、二度とマナを見ることはありませんでした。それ以来、人々はカナンの地の産物を食べるようになったのです。

さて、イスラエル人はエジプトから解放された民であり、エジプトでの奴隷生活を恥じていました。イスラエル人は生贄の子羊を献げ、種を入れないパンを食べて過越の祭りを祝って、神様を賛美し、褒め称えました。このパンは、ヨルダン川が氾濫期であり、春の収穫期だったため、イスラエル人が行進した際に通った畑から採れたものと思われる。

## 奇跡と自然

神様はご自身の計画を達成するために奇跡を行われます。神様の選ばれた民への御心です。わたしたちは<ヨシュア記 5 章 12 節>で見ます。

<ヨシュア記 5 章 (11)・12 節>

そして翌日、自分たちの占領下にある畑から収穫した産物、パン種を入れないパンと炒り麦を食べました。すると、次の日からマナは降らなくなり、二度とマナを見ることはありませんでした。それ以来、人々はカナンの地の産物を食べるようになったのです。

日々のパンであるマナは、不毛の荒野で神様に選ばれた民のために神様が奇跡的に創造されました。イスラエルの人々は、肥沃な土地で作物を植えて収穫するために約束の地までの歩みや人生の旅を止めることができませんでした。神様の御言葉であられるイエス様は、天使のようなすべての自然的、超自然的なものを創造されました。神様が栄光を得るのは、創造された宇宙によって、あるいは超自然的な奇跡によって、ご自身の計画を成就される時です。前にも言いましたように、「聖霊なる神様はグノーシス主義者でも自然を嫌う方でもありません」。約束の地に着いたイスラエルの民はただちに、パンのために小麦を収穫し始めました。主なる神様はイスラエルの民に<出エジプト記 3 章 8 節>に約束されました。

<出エジプト記 3 章 8 節>

わたしは彼らをエジプト人の手から救い出す。エジプトから助け出し、乳とみつの流れる国、広々とした美しい国へ連れて行こう。今は、カナン人、ヘテ人、エモリ人、ペリジ人、ヒビ人、エブス人が住んでいる地である。

神様の約束への誠実さは、今、神様が創造された自然の土地によって成就されました。奇跡の供給があった後、農民たちは仕事に取り掛かる時が来ました。

富を崇拜する世にあって、イエス様を信じて新しく生まれ変わったクリスチャンとして私たちは、単純に働くことよりもむしろ富を求めないようにと警告されています。いくつか聖書のポイントがあります。

・<テモテへの手紙 I 6章10節>

金銭を愛することが、あらゆる悪の根です。ある人たちはお金を愛するあまり、信仰から迷い出て、ひどい苦痛をもって破滅に陥りました。

・<エペソ人への手紙 4.章28節>

盗みを働いていた人はやめ、かえって困っている人に施しができるように、まともに働きなさい。

・<テサロニケの手紙 II 3章10節>

そちらにいた時にも、「働かない者は食べる資格がない」と教えたはずです。

・<マタイの福音書 6章24節-27節>にイエス様は言われました。

**24** だれも、神とお金の両方に仕えることはできません。必ずどちらか一方を憎んで、他方を愛するからです。

**25** ですから、食べ物や飲み物、着る物のことで心配してはいけません。いのちのほうが、何を食べ、何を着るかということより、ずっと大事です。

**26** 空の鳥を見なさい。食べ物の心配をしていますか。種をまいたり、刈り取ったり、倉庫にため込んだりしていますか。そんなことをしなくても、天の父は鳥を養っておられるでしょう。まして、あなたがたは天の父にとって鳥よりはるかに価値があるのです。

**27** だいたい、どんなに心配したところで、自分のいのちを一瞬でも延ばすことができますか。

イスラエルの民のように、私たちクリスチャンもまた、神様に選ばれた民なのです。私たちは御霊なる神様の聖霊様によって生まれたのであって、肉体的な生まれや父アブラハムとの肉親的な関係によって生まれたものではありません。<エペソ人への手紙 1章3節-5節>に、

<エペソ人への手紙 1章3節-5節>

**3** 主イエス・キリストの父なる神がほめたたえられますように。神は、天上のあらゆる祝福をもって、私たちを祝福してくださいました。それは、私たちがキリストのものとなっているからです。

**4** 神はこの世界をお造りになる前から、私たちを、ご自分のものとして選んでくださいました。そして、神は私たちを、ご自分の目から見て、何一つ欠点のない、きよい者にしようとお定めになりました。

**5** 神の御心は、イエス・キリストを遣わし、その死によって、私たちを神の家族の一員として迎えることでした。

神様に選ばれた者として、イエス様は今、私たちを約束の地、天国へと私たちの歩みまたは人生の旅を導いておられます。神様は当時の紀元前1400年以來からも力を失っておられません。神様は、すべてのクリスチャンへの神様の約束を成就するために、超自然的な及び自然的な出来事の両方を画策し、命じられます。イエス様は、私たち全員、私たち一人ひとりを、ご自分の花嫁である教会において、父なる神様に（何一つ欠点のない、きよい者として）献げると約束されています。神様は<エペソ人への手紙 5章26節-27節>のように、私たちを天国に導いてくださいます。

<エペソ人への手紙 5 章 26 節-27 節>

26 キリストがそうなさったのは、バプテスマ（洗礼）と神のことばで教会を洗いきよめ、きよく、汚れのないものとするためでした。

27 こうして、一点のしみも、しわも、何の傷もない、きよく完全な栄光の教会として迎え入れようとされたのです。

### ブルース牧師の救いの奇跡

多くの OIC の教会員が知っているように、あなたの牧師である私は、神様が私を聖職と宣教師に召される前は、科学の分野でキャリアを積んでいました。私はクリスチャンとは名ばかりで、イエス様は実在していたが天に召されたので、私の人生とは無関係だと思っていました。神様は私の注意を引こうと多くの奇跡を起こされました。さらに、聖霊なる神様が罪人である私の歩みをイエス様を信じて新しく生まれ変わるように導かれる正しい場所に向かわせてくださったのでした。私はイエス様を信じて救われる後まで、これらの奇跡のほとんどを理解していませんでした！神様は私に「個人的な」激震（1971 年 10 月）さえ与えてくださいました。神様は私がちょうど占星術の本を開いたときというタイミングを計られました。しかし、私は神様が私に神様の救いの手を差し伸べようとしていることを理解していませんでした。私の科学的な「宗教」が、私のオカルト的な慣例の「占星術」に取って代わられることを、神様はご覧になっていたし、もちろん予知されていました。私の科学は、罪人であっても真実でした。しかし、私は罪深い人生で私が望むものをすべて与えてくれる「神」を求めていました。占星術の本の表紙には、「神は占星術を使って良い人生を与えた」と書かれていました。「神は占星術を使って良い人生を与えた」とは悪魔からのなんという嘘だったのでしょか！

しかし、神様のご計画は、サタンの現実を明らかにし、神様の力を持つ唯一の方、イエス様を求めることによって、私にサタンからの解放を求めさせることでした！以前、同僚が休暇旅行からの「ブドゥー教」のマスクを私たちのコンピュータールームに飾ったことがありました。私は「ブドゥー教」のマスクが怖かったです。私は祈るために隣の部屋に行きました。たぶん恐れからイエス様に祈るということは子供の頃以来の最初のことでした。私が祈り終わって私たちのコンピュータールームに戻ると、「ブドゥー教」のマスクが床に落ちていました。数時間後のある夜、その同じコンピュータールームで私はサタンに会いました。私は誰も見なかったですが、サタンの声と奇跡を聞きました。私は仕事が終わった後、会社のレポートの自分のパートを入念にチェックするために残っていました。会社のレポートの自分のパートは米軍向けでした。私たちは、Nike Missile 基地に対する原爆攻撃のコンピュータ・シミュレーションを見ていました。私たちのコンピューター・プログラムは、原爆が炸裂したときにどのタイプの発電機が動き続けるかを米軍に示しました。その夜、私の仕事場で、サタンは 50X60 フィート（279 平方メートル）の部屋の大部分を占める大型コンピューターで私にマインドコントロールを与えました。私が「OFF」と言うたびに、IBM のコンピューターは止まりました。そして私が「START」と言うと、IBM のコンピューターは動き始めました。何回もです。するとサタンは、私がこの「賜物」を受け入れなければならぬと言いました。私はどうにかして戦うことに決めました。だから私はサタンに「ノー」と言いました！サタンは殺気を帯びた声で言いました：「もしあなたが私（サタン）にノーと言ったと人々に言えば、それを聞いた人々はあなたは頭がおかしいと言うだろう」私はサタンに言い返しました。「イエス様はあなた（サタン）が語ったことを聞いておられて、イエス様は狂ってはおられません。」サタンは怒って去って行きました。私が平和の王なるイエス様を見つけるまでには、さらに 1 年間、暗闇の王（サタン）との激しい精神的な霊的戦いが続きました！私はそのような精神的疲労のために、貴重なエンジニアリング・サイエンスの仕事の失ったことさえありました。しかしある夜、神様がビリー・グラハム（有名なアメリカのキリスト伝道師）のテレビ放送を見るように導いてくださいました。私は眠りにつきながら神様に祈りました：「神よ、あなたは私のことなど気にかけておられません。でも、

私は神様の助けが必要です。」その夜、悪魔は私の寝室の明かりで追い払われました。私の部屋のドアをノックしている魔女も。翌朝、私は私の電話帳で「福音派の教会」を見つけました。それから約1ヵ月後の1973年5月17日に、私はBill Brightの『4つの霊的法則』を読みながら、信仰によってイエス様を受け入れました。こうして、キリストにある私の新しい人生が始まりました。

だから.....親愛なるOICの聖徒の皆さん、悪魔を恐れてはいけません。またあなたの人生が行き詰まっているように感じたり、あなたの人生が神様の御国のために良い影響を与えていないと思えるときは、神様に奇跡を求めることを恥じてはいけません。私が神様に求める前に、神様は奇跡を私にくださいました。ヨシュアは紀元前1406年に、私は西暦1971年に、神様は神様の選ばれた者達のために同じだけ偉大な力を今日もそして永遠に持っておられます。

しかし、私たちが奇跡を求めるとき、神様の愛において、神様が私たちに答えてくださることもまた覚えていなければいけません。：神様の答えは「はい」または「いいえ」または「待ちなさい」です。でも、神様はいつも私たちの祈りに答えてくださいます。！<エペソ人への手紙1章11節>に読むとおりです。

<エペソ人への手紙1章11節>

そればかりでなく、神のご計画のままに、神のものとなるように最初から選ばれていた私たちは、神が喜んでくださる存在となっています。

次に、<ヨシュア記5章13節-14節>に

**13**さて、ヨシュアがエリコの町を見上げていた時、一人の人が目の前に現れました。その人は抜き身の剣を手にしていました。ヨシュアは歩み寄り、「味方か、それとも敵か」と問いただしました。

**14**すると、「わたしは主の軍の将である」という答えが返ってきました。その声を聞くと、ヨシュアは地にひれ伏して彼を拝み、「どうぞご命令を」と言いました。

次に *Septuagint* 訳を使用することに注意してください。後で少し説明します。

あなたは、こう尋ねるかもしれません。「Bruce 牧師、ヨシュアに立ちはだかる【主の軍勢の隊長】とは誰ですか？」

主の軍の隊長(KJ21版)。または、主の軍隊の司令官(NLT版)？

クリスチャンは「イエス様は主である」と知っており、告白しています。ペテロは、「イエス様は主である」という啓示をユダヤ人がへりくだり、イエス様を信じる救いにユダヤ人を導くために、<使徒の働き2章36節>に説いています。

<使徒の働き2章36節>

ですから、イスラエルのすべての人に、はっきり言っておきます。神様が主とし、キリスト(ギリシャ語で、救い主)とされたイエスを、あなたがたは十字架につけたのです。」

こうしてイエス様の神性と神様との同等が宣言されています。しかし、イエス様はかつて旧約聖書ではなかったですが、新約聖書で人類に神様を詳細に啓示し、説明されました。イエス様は三位一体の神様、父なる天の神様・御子イエスキリスト様・聖霊なる神様の三つの人格を明らかにされました。イエス様は天の父なる神様に祈りました。イエス様は聖霊なる神様によって油を注がれていました。私たちの神様に関する知識は、紀元前1406年のヨシュア

まで遡ることができます。私たちは何を考えますか？ 剣を手にヨシュアの前に立っているこの男性は、イエス様だったかもしれませんが。しかしわたしは剣を手にヨシュアの前に立っているこの男性は、イエス様だったとは思いません。なぜなら栄光の御子であるイエス様が、人類のために死ぬために赤ん坊として生まれられるために神様の栄光の姿を注がれたのです。私は、この無にされているイエス様御自身は、失われた罪人のためだけに一度だけ起こったと思っています。この無にされているイエス様御自身は、＜ピリピ人への手紙 2 章 7 節＞でイエス様について書かれています。

＜ピリピ人への手紙 2 章 7 節＞

かえって、その偉大な力と栄光を捨てて奴隷の姿をとり、人間と同じになりました。

ヨシュア記のこの聖句の正しい解釈や積義は、主の軍隊の司令官（NLT 版）の正確な正体について変わるものではありません。しかし、私は主の軍隊の司令官（NLT 版）が神様に仕える天使だったと強く信じています。聖書で名前を与えられている天使は、ガブリエルとミカエルだと記憶しています。ガブリエルはマリアに、マリアがメシアの母として選ばれたという知らせを伝えました。ミカエルは、ペルシャの王子との霊的世界の戦いで遅れてダニエルのもとに来ました。これらの天使たちは、神様に選ばれた人々のために戦い、神様からのメッセージを届けます。これらの天使たちは遅れることはあっても、決して負けることはないことを私たちは確信しています。神様の目的はすべて達成されます！

イスラエルへの神様の目的は、約束の地カナンを手に入れることでした。剣を持った天使がヨシュアとイスラエルの民のために戦いに来たことは明らかでした。注目すべき点は、＜ヨシュア記 5 章 13 節-14 節＞で天使がヨシュアに答えたように、*Septuagint* 旧約聖書には「Neither one（どちらでもない）」という言葉がないことです。*Septuagint* は、イエス様の使徒たちが最もよく引用した聖書でした。

この「どちらでもない、…」という返答は、多くの翻訳では意味をなしません。主なる神様は、エジプトからずっと、そしてエジプトで、イスラエルの民のために奇跡を行うために神様に仕える御使い（の群れ）を遣わしてこられました。イスラエルの民のために奇跡を行うために神様に仕える御使い（の群れ）を遣わされたのは、イスラエルの民に対する敵や敵を打ち負かすためでした。神様に仕える天使たちはヨシュアとイスラエルの民の味方でした。善と悪の戦いはエデンの園以来同じです。＜ルカの福音書 9 章 50 節＞でイエス様は言われました。

＜ルカの福音書 9 章 50 節＞

「ところが、イエスは言われました。「そんなことをしてはいけません。あなたがたに敵対しない者は、あなたがたの味方なのです。」

ヨシュアは、主なる神様がヨルダン川を干上がらせた前日にも、奇跡をしばしば見ていました。しかし、ヨシュアはそれまで天使に会ったことがなかったのかもしれませんが。ヨシュアが＜ヨシュア記 5 章 14 節＞を聞くまでは、理解するのに数分かかったと思います。

＜ヨシュア記 5 章 14 節＞

すると、「わたしは主の軍の将である」という答えが返ってきました。その声を聞くと、ヨシュアは地にひれ伏して彼を拝み、「どうぞご命令を」と言いました：

それからヨシュアは主の天使は主の使者だから正しく行動しました。だから＜ヨシュア記 5 章 14 節-15 節＞で

<ヨシュア記 5 章 14 節-15 節>

**14** すると、「わたしは主の軍の将である」という答えが返ってきました。その声を聞くと、ヨシュアは地にひれ伏して彼を拝み、「どうぞご命令を」と言いました。

**15** その将なる天の御使いは、「くつを脱げ。ここは聖なる地である」と言いました。ヨシュアはそのことばに従いました。

ヨシュアは本物の主の天使を見て、何を感じたのだろうかと思います。畏敬の念を抱いているのは確かです。実は、そのような素晴らしい経験でさえ、勇気が必要でした。<ヨシュア記 1 章 9 節>で神様がヨシュアに言われたとおりです。

<ヨシュア記 1 章 9 節>

「さあ、勇気を出しなさい。恐れたり迷ったりしてはならない。どこへ行っても、あなたの神であるわたしがついている。」

天使のメッセージは、ヨシュアが恐れや疑いによって神様の御言葉を本当に信じることを妨げられなければ、ヨシュアに大きな自信をもたらすでしょう。

約 3400 年後の私たちクリスチャンもまた、強く勇気を持つ必要があります！恐れてはならないし、落胆してはなりません。<マタイの福音書 28 章 18 節-20 節>にあるイエス様の約束を、私たちはしばしば思い起こさなければなりません。

<マタイの福音書 28 章 18 節-20 節>

**18** イエスは弟子たちに言われました。「わたしには天と地のすべての権威が与えられています。」

**19** だから、出て行って、すべての人々をわたしの弟子とし、彼らに、父と子と聖霊との名によってバプテスマ（洗礼）を授けなさい。

**20** また、弟子となった者たちには、あなたがたに命じておいたすべての戒めを守るように教えなさい。わたしは世界の終わりまで、いつもあなたがたと共にいます。」

<ヨシュア記 6 章 1 節>を読みます。

<ヨシュア記 6 章 1 節>

さて、エリコの町の城門は堅く閉じられていました。だれもがイスラエル人を恐れていたからで、人っ子ひとり出入りできないほどでした。

エリコの王とエリコに隣接する都市の敵は、エリコを無敵の地と考えていました。以下は、ライフ・アプリケーション・バイブル（LAB 版）の<ヨシュア記 6 章 1 節>の注釈からの引用です。

【エリコの町は、ヨシュアが生まれる何千年も前に築かれた、世界で最も古い町のひとつである。場所によっては、高さ 25 フィート（7.6 メートル）、厚さ 20 フィート（6.1 メートル）の城壁があった。城壁の上に見張りに立っていた兵士たちは、何キロも先まで見渡すことができた。エリコは軍事力と強さの象徴であった---カナン人はそれを無敵のものと考えていた。】

**エリコでの勝利のための神の計画**

天使は次に、勝利への神様の指示を<ヨシュア記 6 章 2 節-5 節>に述べました。

<ヨシュア記 6 章 2 節-5 節>

2 ところが、主はヨシュアにこう告げたのです。「あなたは、もう勝ったも同然だ。町も人もみな、あなたたちのものだ。

3・4 六日の間、全軍を率いて、日に一度、町の周囲を回りなさい。そのあと、ラッパを手にした七人の祭司と契約の箱が続き、七日目には七度回り、祭司がラッパを吹き鳴らしなさい。

5 祭司がラッパをひときわ高く、長く吹き鳴らしたら、全員、大声でときの声を上げなさい。町の城壁はくずれ落ちるだろう。その時、四方八方から町へ攻め込むのだ。」

先週の説教「1歩1歩、着実に」で、私はこう言いました。しかしそれから、主は割礼{イスラエルの民の主への再誓約}の後、癒しのためにしばらくの間、イスラエル軍の兵士たちを戦闘不能にされました。あなたが神様から本当に御声を聞くときはいつでも、愚かな非難など気にしないことです。神様は選ばれた民のすべての敵の強さと居場所を知っておられます...その当時も今も！

神様はヨシュアが信仰を続け、ヨシュアの人生に勇気をもって主なる神様とともに現実の視野を広げていくことを信頼されました。神様は、無敵のエリコがイスラエル軍の前に陥落したことを、自分達の手柄にすることを誰にも望まれませんでした。ヨシュアとイスラエルの兵士たちは、アブラハム、イサク、ヤコブの神様であられる神様に信仰を持ち続ける必要がありました。神様の民である私たちは、ヨシュアのように勇気を発揮することによって、信仰が成長するのを見届けましょう。

エリコでのヨシュアの励まし

- ・ヨシュアは、戦いで主の天使たちを指揮した天使の訪問を受けた。
- ・ヨシュアはまた、勇気を持ってという主の命令と、約束された主の臨在を思い出すことができた。

時代の終わりまで、すべてのクリスチャンの励まし：

- ・私たちに、すべての天使を創造されたイエス様による、私たちを決して見捨てないという約束がある
- ・神様の子としての父なる神様からの愛の交わり
- ・私たちの内なる聖霊様からの止められない力

エリコでのヨシュアの挑戦

- ・天使によってもたらされた神様の言葉を信じる
- ・聖なる司祭たちが7日間、エリコをぐるぐると行進した後、神様の力を解放するまで、剣を脇に差していた。
- ・7日間にわたる行進の詳細について、主なる神様がヨシュアに言われたとおりにすること
- ・エリコの城壁が崩壊した後、エリコの王とその軍勢に対して、命がけで接戦を挑んだ

天国でイエス様とともにいるために人生の旅として歩むすべてのクリスチャンの課題

- ・聖書に記された神様の言葉を信じる
- ・イエス様が、わたしなしにはあなたは何もできないと言われたのを覚えている
- ・神様の道に歩いて生きる：イエス様の福音は平安であり、神様の律法は愛である
- ・悪魔に立ち向かう勇気を持ち、キリストのために罪人に手を差し伸べるために悪魔に抵抗する

<ヨシュア記6章2節>に

ところが、主はヨシュアにこう告げたのです。「あなたは、もう勝ったも同然だ。町も人もみな、あなたたちのものだ。

神様の使者としての天使が、あたかも主なる神様であるかのように語ったことに注目してください。神様の御座から直接聞いているのだから、神様の使者としての天使が、あたかも主なる神様であるかのように語ったことは理にかなっています。

#### <ヨシュア記6章3節-（4節）>に

六日の間、全軍を率いて、日に一度、町の周囲を回りなさい。そのあと、ラッパを手にした七人の祭司と契約の箱が続き、七日目には七度回り、祭司がラッパを吹き鳴らしなさい。

イスラエルの民の何人かは、静かにこう言ったかもしれないと思います。「ヨシュアは私たちを堂々巡りに導いている。これでは戦いに勝てない！」もちろん、主なる神様はヨシュアに勝利への従順を試されたのでした。私たちクリスチャンは律法の下にあるものではありません。しかし、神様への従順を怠ってはなりません。愛の律法とは、私たちの行動でイエス様を喜ばせたいという願望を意味します。恐れからではなく、私たちは愛の上に築かれた関係の中で、イエス様の近くで生きたいと願っています。イエス様の大きな愛と、私たちの切実な愛をイエス様に返します。

#### <ヨシュア記6章（3節）4節-6節>

**3・4** 六日の間、全軍を率いて、日に一度、町の周囲を回りなさい。そのあと、ラッパを手にした七人の祭司と契約の箱が続き、七日目には七度回り、祭司がラッパを吹き鳴らしなさい。  
**5** 祭司がラッパをひときわ高く、長く吹き鳴らしたら、全員、大声でときの声を上げなさい。町の城壁はくずれ落ちるだろう。その時、四方八方から町へ攻め込むのだ。」  
私たちは、聖書の意味よりも数字を重要視しすぎることに気をつけなければなりません。しかし、神様が人間の明らかな敗北、不動の壁から勝利を創造されたことは明らかです。こうして7という数字は、天地創造の6日間を終え、7日目、つまり神様が休まれた日、安息日を意味します。戦いは安息日？そうです！ イスラエルの兵士たちは戦いの前に待機し、見守っていたのは事実です。そして、神様は7日目の行進の日、祭司たちの角笛と民衆の叫び声によって、イスラエルの民全てのために勝利を創造されました。

#### ヨシュアは従順で導く

ヨシュアは主なる神様の御使いを信じました。ヨシュアは、神様が約束されたとおりに「来てくださる」、「現れてくださる」、「いてくださる」と信じていました。ヨシュアは、偉大な神様からの超自然的勝利がなければ、勝利はまったくないことを知っていました。神様は不動の粘土レンガの壁を崩壊させるのです。次にヨシュアは、神様の民を勇気と信仰で導き、不動の壁を破壊するために立ち向かわせて「奇跡」を起こします。

#### <ヨシュア記6章7節-(9節)>

ヨシュアは祭司たちを召集し、指示を与えました。すなわち、武装した者たちが行進の先頭に立ち、そのあとに七人の祭司がラッパを吹き鳴らしながら続くこと、そのうしろを主の契約の箱をかつぐ祭司が進み、さらに、護衛兵がしんがりを務めることなどです。

クリスチャンは、天国のイエス様への歩みを阻むさまざまな「不動の壁」に直面しています。一日一日... 一步一步「神様の子」になっていく私たちは、「神様の子」としてはまだ人間的すぎるのかもしれません。私たちは、ヨシュアがどのようにイスラエルの民を率いて、不動の壁がある開けた場所に登っていったかを思い出すとよいでしょう。しかし、ヨシュアは神様を信じました。ヨシュアは登る必要はありません。神様がその偉大な力によって、カップケーキのように不動の壁を砕いてくださるからです。神様が約束されたように、壁が崩

壊した後、血なまぐさい戦いが起こるでしょう。しかし、神様はヨシュアにイスラエル兵の勝利を約束していました！

私たちはまた、神様がその偉大な力を私たちの人生に用いてくださることを期待しなければなりません。神様がイエス様を死者の中からよみがえらせたとき、神様はこの偉大な力を示されました。神様はしばしば、超自然的なことと、その後に行うハードワークを組み合わされます。ヨシュアはエジプトからエリコまでの旅で多くの神様の偉大な奇跡を見ました。これらの奇跡は、まだ見えないものに対するヨシュアの神様への信仰を強めました。ヨシュアは神様の約束された勝利を信じました。今日、キリストは墓からよみがえられたので、死そのものは私たちにとって脅威ではありません。神様は私たちの前に、私たちの不動の壁を崩すかもしれません。主は、私たちがそれを登り、転び、再び挑戦するよう強めてくださるかもしれません。しかし私たちは、神様が現れ、私たちの人生が豊かになるために約束された勝利を与えてくださることを信じることができます。＜ヨハネの福音書 10 章 9 節-11 節＞に神様の御子は約束されたとおります。

＜ヨハネの福音書 10 章 9 節-11 節＞

**9** わたしは門なのです。この門から入る者は救われます。また、安心して出入りができ、緑の牧草を見つけるのです。

**10** 強盗は、盗んだり、殺したり、滅ぼしたりするために来ます。しかしわたしが来たのは、いのちをあふれるほど豊かに与えるためです。

**11** “わたしはまた、良い羊飼いです。良い羊飼いは羊のためにはいのちも捨てます。

良き羊飼いは、すでに十字架上で私たちのために命を犠牲にしてくださいました。イエス様の勝利は、私たちの勝利の祝福された保証です。紀元 1 世紀、パウロはヨシュアのように勇気と信仰をもって、自らの「不動の壁」に立ち向かいました。パウロはどこで説教をするときでも、ヨシュアのように勇気と信仰を持っていました。しかし、パウロは＜ピリピ人への手紙 1 章 21 節＞で言っているようにまだ喜びがあり、自由を感じていました。

＜ピリピ人への手紙 1 章 21 節＞

私にとって生きることは、キリストのために良い機会を得たことを意味し、死ぬことは、さらに素晴らしいことを意味するからです。

祈りましょう